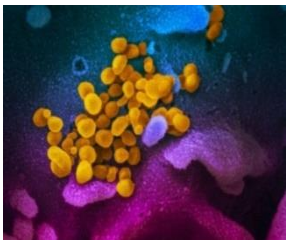
仙台放送合唱団

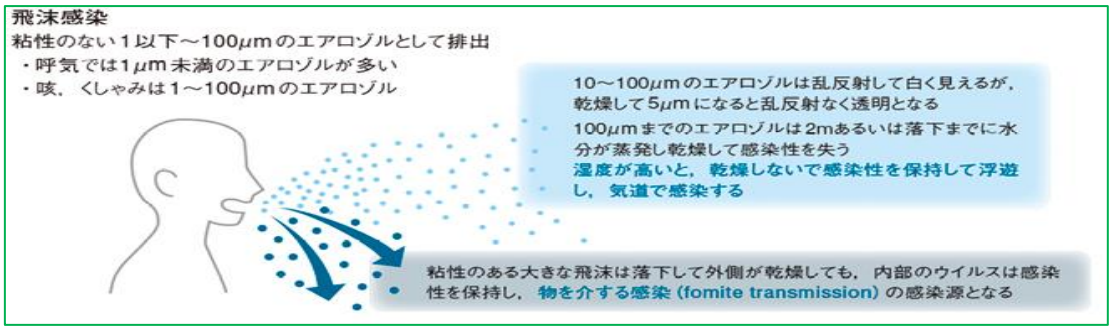
新型コロナウイルス感染の拡大を防ぐために

今年初め中国に始まった新型コロナウイルス感染は今や世界的な大流行となり、わが国でも感染者数の加速的な増加が止まりません。私たちは３月初めから定期練習を自粛し見あわせてきましたが、過日岐阜の合唱団がクラスター感染の源となっていたとの報道に接し、あらためて大きな衝撃と緊張を感じています。　私たちは、一日も早く事態が収束し合唱練習の再開が可能となる時を、祈るような思いで待ち望んでいます。　確かに、今は先行きの見通せない状況ではありますが、そんな中でも 感染の現状と今後を正しく理解しながら 感染予防の対策を整えて来るべき練習再開の時を迎えたいと願います。　（２０２０年４月２日）

新型コロナウイルス COVID19 とは

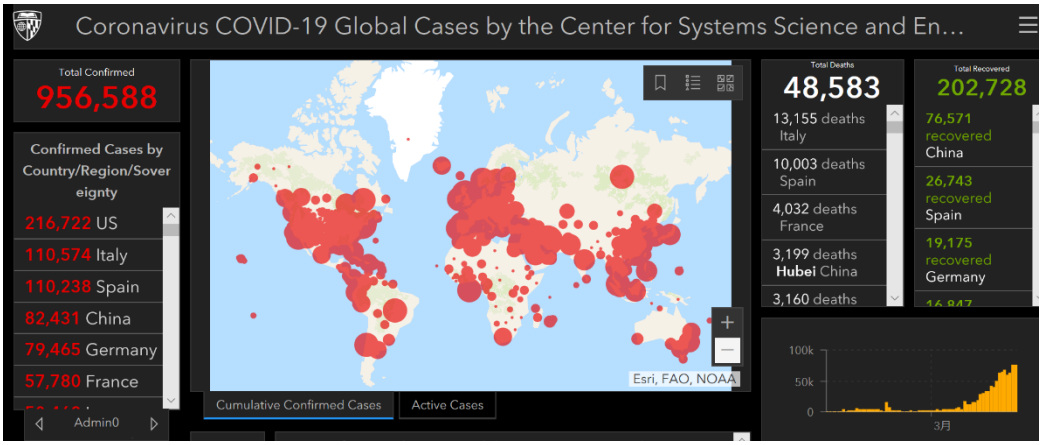


- 大きさ 50～200 nm（0.05～0.2um）の RNA ウイルス
- エンベロープを有しエタノールや有機溶媒で容易に不活化する（感染性を失う）
- 標的は上気道(鼻・咽頭・喉頭）および 下気道（肺）の細胞
- 感染様式　①飛沫感染（人から人へ）
  ②接触感染＝物を介する感染（人から物へ・物から人へ）

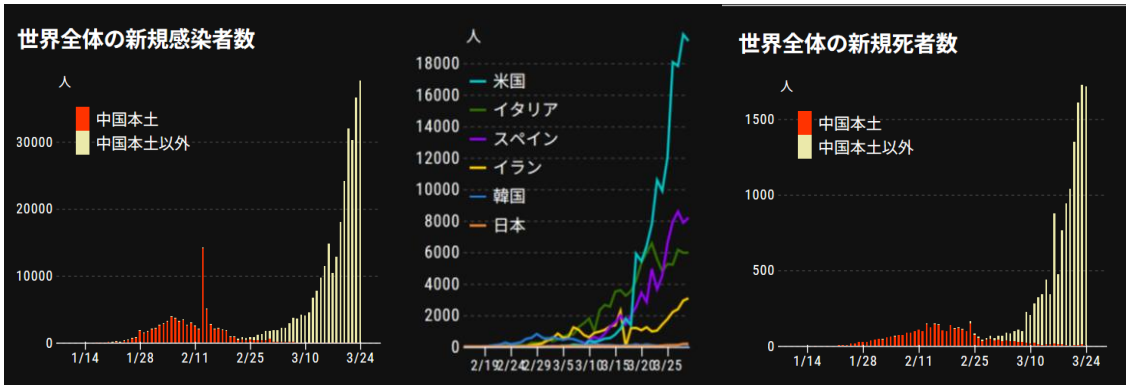


（白木公康）

世界は パンデミック



JohnsHopkinsUniv

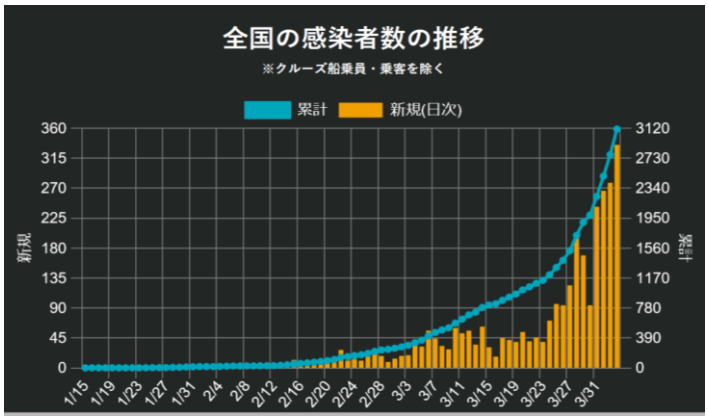


（日本経済新聞）

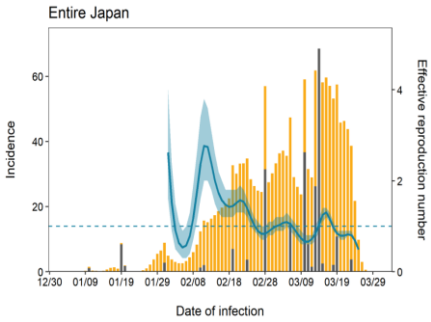
感染の波は中国からヨーロッパ・アメリカへ、猛威をふるって拡大し、１００万人の罹患者と５万人の死亡者が発生している。さらに南米やアフリカにも及び、今や全世界を覆わんばかりである。

日本の現状は“持ちこたえつつも”予断を許さない拡大傾向

不要不急外出の自粛、大型イベントの自粛、在宅勤務の奨励、休校などの要請に応えた国民的な取り組みと行動変容が、一定の功を奏し、パンデミックという状況とならずに持ちこたえてきた。しかし、都市部を中心に感染が拡大し、特に感染源の分からない患者が増加しており、今後 爆発的な流行になりかねない。



(Fastalert in NewsDigest)



実効再生産数

（20200401 専門家会議提言）

専門家会議の提言 2020-3-19

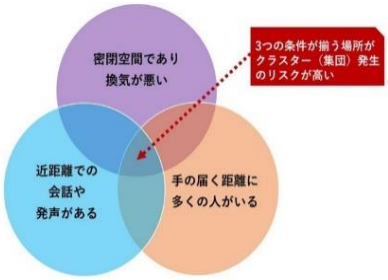
今後 長期戦を覚悟、基本戦略を強化し 爆発的な感染拡大（オーバーシュート）を回避しなければならない。基本戦略の柱は次の３点である。

（１）集団感染（クラスター）の早期発見。

（２）重症者への集中治療。

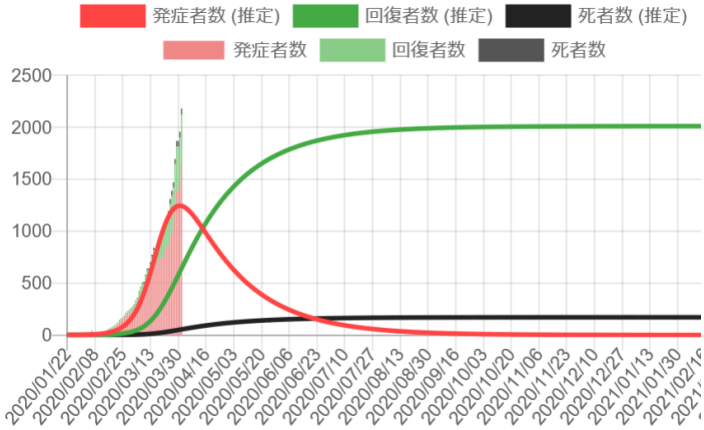
（３）市民の行動変容への要請。

特に一般市民に対して　①「換気の悪い密閉空間」、



②「人が密集している」、　③「近距離・密接の会話や発声」の３つの「密」条件が重なる場所での行動を自粛するように。

今後の予測は可能か、ピークと収束の時は？



2020年３月31日時点の発症者数1243人をピークとした場合、９月ごろの収束が期待される。
しかし、実際には　なかなか発症者数のピークアウトが見えてこないので予測は難しい。

（四谷ラボ：数理モデル）

全日本合唱連盟の「注意喚起」2020-3-4

各合唱団のみなさまには、下記のように感染予防に十分ご配慮の上、活動してくださいますようお願い申し上げます。　なお、状況は日に日に変わっていっておりますので、ニュースなどで最新の情報を入手して判断し、行動してくださいますようお願いいたします。

（１）合唱団員の方へ

厚生労働省の指針では、感染予防のために「一般的な感染症対策や健康管理を心がけてください」とされています。お一人お一人でマスクの着用など咳エチケットやこまめな手洗いなどを心掛け、風邪のような症状がある場合は練習等への参加を控えてください。　特に、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患など）を有する方は、ご注意ください。

◇厚生労働省指針：感染予防のために　・石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒を行う。　・十分な睡眠。　・人混みの多い場所を避ける。

（２）合唱団の運営にあたって

厚生労働省から集団感染を防ぐための指針が出されています。各合唱団では、感染機会を減らすために、アルコール消毒液の設置、こまめな換気を心掛け風通しの悪い空間を作らないなどの工夫をお願いします。

◇厚生労働省指針：集団感染を防ぐために　・換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることは避ける。　・イベントの開催について、風通しの悪い空間や人が至近距離で会話する環境は感染リスクが高いので、規模の大小にかかわらず、開催の必要性についてよく検討し、開催する場合には風通しの悪い空間を作らないなど実施方法を工夫してください。

仙台放送合唱団　　２０２０年４月１日

新型コロナウイルス感染予防ガイドライン

私たちは、来るべき合唱練習の再開に臨んで、指揮者・伴奏者および団員の健康と安全を大切にし、皆がそれぞれに感染の被害者にも加害者にもなり得ることを自覚し、合唱練習がクラスター感染の源とならないよう、次の事項に留意する。

、

１．自らの日常的な衛生管理および体調管理に努める

発熱があったり、違和感や不調を感じたりした場合は練習に参加しない！

２．練習室について

① 換気が悪く湿気の多い部屋の使用を避ける

② 練習中は１時間に５分間程度の換気を行い空気を入れ替える

３．入室前に　手洗い　および　うがい　をする

４．入室時に手指のアルコール消毒を行う

５．練習時の立ち位置について

① 団員は互いに前後左右５０ｃｍ以上あけた立ち位置をとる

② 指揮者および伴奏者は団員から２ｍ以上の距離をおく

６．その他

① 練習中にも適時 水を飲む（口腔・咽頭に付着したウイルスを嚥下し、また気道上皮の乾燥を防ぐために）

② 手を顔や頭にもっていかない（“手”は感染の媒介になる！）

③ マスクの着用は、咳・くしゃみ・至近距離での会話に由来する大きな飛沫に対して、また気道の保湿に、有効である。しかし、いったん着用したら手に触れないようにしよう（マスクは汚染されている！）

★ 多くの大切な命が救えなくなる「医療崩壊」、それを招かないためにも私たち一人ひとりが注意しましょう。